

## ジュニア・イヤー・プログラム

「スタディ・アブロード・イン・ロンドン」は大学二・三年生向けのエキサイティングなロンドン留学プログラムです。大学の二年生、または三年生をロンドン・メトロポリタン大学で過ごしながら海外生活の経験を得ると同時に、日本での学位に必要な単位を取得することができます。ロンドン・メトロポリタン大学の学部生として学生生活を送りながら、新しい文化環境にスムーズに適応することができるプログラムです。

当プログラムでは世界各地からの留学生とともに英国の教育を直接体験します。カリキュラムはフレキシブルで、各自の専攻分野はもちろん、それ以外のモジュール(クラス)や科目を取ることもできます。本格的な勉強が始まる前にまずイントロダクションの期間が設けられており、歓迎会や登録会、オリエンテーションが行われます。留学期間中は、ロンドン・メトロポリタン大学の一員として学問と遊びの両面で生活を満喫することができます。大学には色々なクラブがあり、スポーツやフィットネス、レクリエーションの施設も充実しています。

## 所在地

メイン・キャンパスは2つです。ロンドンのシティーと呼ばれる地域にあるシティー・キャンパスは、ロンドン塔や金融地区に隣接しています。一方、ノース・キャンパスは、数多くのカフェやレストラン、バーが並ぶ、ロンドン北部のイズリントン地域に位置しています。どちらもロンドンの中心にあり、ヒースロー空港からキャンパスまでは地下鉄で約1時間です。キングスクロス駅やユーストン駅などにも地下鉄ですぐなので、鉄道で英国内やヨーロッパ各地へ旅行するにも大変便利です。キャンパスの地図は[こちら](#)をクリックしてください。

## ジュニア・イヤー・アブロード・プログラム構成

当大学の「英語研修を含んだジュニア・イヤー・アブロード・プログラム ([Junior Year Abroad Programme with English](#))」は、4月又は9月の開始が可能です。1学期間の集中英語研修を終了後、次の学期には本格的な学部のコースを含めて総合的な勉強をします。また、語学力が所定の基準に達していない学生のために、学期開始前の英語上達を目的にした一ヶ月間の英語コース ([Pre-Sessional English courses](#)) が夏に開設されます。

「ロンドン・メット(メトロポリタン大学)での1学期間の経験は一生忘れません。ロンドンの人たち、そして大学の人たちは皆とってもフレンドリーで親切でした。ロンドン生活は本当に最高でした。」カサンドラ・クラークさん(アメリカ、ウィスコンシン州、Carthage College からの留学生)

## ジュニア・イヤー・アブロード・プログラム パンフレット

### ジュニア・イヤー・アブロード・プログラム 日程

#### パート1 2006年4月開始

登録	2006年4月28日
コース開始	2006年5月2日
コース終了	2006年9月15日

#### パート1 2006年9月開始

登録	2006年9月23日
コース開始	2006年9月26日
冬休み	2006年12月18日～2007年1月5日
コース終了	2007年1月31日

## パート2(4月開始のパート1より継続の学生及びパート2のみ受講の新入生) 2005年9月

パート2新入生登録	2006年9月23日
コース開始(パート1からの継続生を含む)	2006年10月2日
冬休み	2006年12月18日～2007年1月5日
コース終了	2007年2月2日

## パート2 2007年2月開始

パート2新入生登録	2007年2月1日
コース開始	2007年2月5日
イースター・ホリデー	2007年4月2日～13日
コース終了	2007年6月1日

## ジュニア・イヤー・アブロード・プログラム(JYA)授業料

ジュニア・イヤー・アブロード・プログラム(JYA)	£7,400*(コース開始前に全額お支払いの場合は10%の割引となります)
パート1	£3,700*
パート2	£3,700*

\*2006/7年度現在

## 宿泊施設

さまざまな宿泊施設の中から選ぶことができます。下記の情報を参考に、ロンドン留学中の自分に合った滞在先を選んでください。更に詳しい情報、質問などに関しては、当校ウェブサイトを参照するか、このページの最後にある連絡先までお問い合わせください。

JYA プログラムの学生の多くが、最初の数ヶ月間、ホームステイを選んでいますが、理由はさまざまですが、英国文化を学び英語を上達させるのにイギリス人家庭が格好の場であることが最大の理由といえるでしょう。また、英国の学年度は普通9月～6月であるため、JYA プログラムの新入生がロンドンに到着する4月はちょうど学年度中にあたり、学生寮やホステルの予約が難しいという事情もあります。

7月初めから9月中旬までは、学年度の切り替わり期にあたるため、大学の学生寮に滞在することが可能です。JYA プログラムの学生の多くがこの方法を選びますが、次の学年度には、継続して寮にとどまる学生もいれば、大学で知り合った友人と一緒にオフ・キャンパスの部屋を各自で借りて住む学生もいます。

この他の宿泊施設とその申込方法については下記をご覧ください。

## 学生寮

ノース・キャンパスのメインビルから徒歩25分以内の距離に3つの学生寮があります。アーケード・ホール(The Arcade Hall)は一人部屋のある男女別又は男女共同のフラット(アパート)です。ジェームズ・レスター(James Leicester)とタフネル・パーク・ホール(Tufnell Park Hall)は各階キッチンとバスルームを「シェア」する、一人部屋の学生寮です。ジェームズ・レスターでは月曜日から金曜日まで(国の休日を除く)夕食が出されますが、その他の寮は自炊となります。

ノース・キャンパス学生寮の宿泊費は2005/2006年度現在で£82～94/週です。2006/2007年度の費用はこれより数ポンド高くなる見込みです。

夏期(7月～9月)に学生寮滞在希望の場合は、4月に各寮より発行される別の申込用紙の記入が必要となります。

### ホームステイ

安全快適な英国家庭で落ち着いた生活のできるホームステイは、ロンドンで新しい生活を始めるにあたって理想的な方法といえます。取次業者が各個人に適したホームステイ先を手配します。ノース・キャンパス近辺のホームステイ先を案内している取次業者のリストは、下記の宿泊施設のウェブページをご覧ください。

### ホステル

ロンドンには外国人留学生向けのホステルが数多くあります。学生寮と似ていますが、各大学とは別に運営されているため、いろいろな学生と出会うことができるのがホステルです。下記の宿泊施設のウェブページに各ホステルに関する情報やその他便利なリンクが掲載されています。**International Students House (ISH)** と呼ばれる国際留学生会館もその一つです。ロンドンで学ぶ英国人や外国人学生が滞在するこのホステルは、ロンドン中心に位置し、インターナショナル・ステューデント・クラブも備わっています。ISH は3ヶ所の宿泊設備に分かれ、長期及び短期滞在が可能です。また、レストランやスタディー・ルーム、クラブや同好会、そしてスポーツ・ジムなどの設備も整っています。ISH のウェブサイト: [www.ish.org.uk](http://www.ish.org.uk)

### 個人によるオフ・キャンパスでの賃貸

ロンドン生活にも慣れて友達と一緒に住みたいという学生の多くがとる方法です。当大学ではインタラクティブなウェブサイト 'The Housing Channel' ([thc.londonmet.ac.uk](http://thc.londonmet.ac.uk)) を設け、貸室やフラットメイトの広告、一般の不動産業者を使って部屋を探す場合のアドバイスや情報を提供しています。ただし、すでにロンドンに滞在しており、自分の目で物件を見られる人以外には、個人による賃貸はお勧めできません。

Helen Weighell

International Accommodation Officer

Tel: + 44 20 7133 2324

Fax: + 44 20 7133 2326

Web site: [www.londonmet.ac.uk/accommodation](http://www.londonmet.ac.uk/accommodation)

Email: [accommodation@londonmet.ac.uk](mailto:accommodation@londonmet.ac.uk)

### 英語研修を含んだジュニア・イヤー・アブロード・プログラム

このプログラムは1学期間の集中英語研修、そして大学での勉強のために準備を必要とする人を対象としています。柔軟な2部構成のプログラムとなっているので、最初の学期は英語の上達とパート2へ向けての準備に集中することができます。パート2では、様々な分野の中から各自の専攻分野に絞ってモジュール(クラス)を取ることができます。プログラム修了後は修了証書及び成績証明書が発行されます。取得した成績は、本国で在籍中の大学で必要な単位として認められる場合もあります。

- フレキシブルな2部構成のプログラム
- 英語研修
- 英国文化との触れ合い
- スタディ・スキル(大学で学ぶうえで必要な学習技術)
- 幅広い科目の中から選べる学部コース
- ホームステイの体験
- 学生サポート

このプログラムは2部構成となっています。

#### パート1:

4月下旬～8月下旬、又は9月～1月の 20 週間

英語研修(毎週午前5日間。パート2に向けて、英語力の上達と大学で学ぶのに必要な学習技術の習得が目的です。)**「英国文化(’British Culture’)」**と題されたクラスも必須科目です。また、生活面でのケア、勉強面でのサポートも学期を通して受けられます。

コース名	内容	受講時間
英語	流暢さの訓練 間/週 レター・レポートの作成 読解 聴解 ディスカッション・グループ プレゼンテーション	15時
英国文化	英文学 /週 ポピュラー・カルチャー 演劇鑑賞 美術館・博物館訪問	4時間

(英語研修を含んだ)ジュニア・イヤー・アブロード・プログラム パンフレット

## パート2:

9月下旬～1月下旬、又は2月～6月の15週間

パート2では、外国人のための英語研修のモジュール(クラス)を含んだ4つのモジュールを勉強します。うち2つのモジュールはモジュール・カタログから各自で選択できます。詳しくはモジュール・ライン([Module Line](#))をご覧ください。選択科目は各自の興味や経験、学習力によって決まります。学部でのモジュールの選択に関しては大学がお手伝いします。また、必須科目として**「学究的環境での学習とコミュニケーション(Learning and Communicating in the Academic Environment)」**が含まれます。これは学部学生用のモジュールで、皆さんが専攻科目を勉強するに当たって役に立つものです。

科目	詳細	受講時間
英語	科目コード <a href="#">OLP194</a>	3時間/週
専攻科目	<a href="#">アルファベット順科目リスト</a>	3時間/週
専攻科目	<a href="#">アルファベット順科目リスト</a>	3時間/週
学究的環境での学習とコミュニケーション		3時間/週
美術・芸術	<a href="#">Fine Art</a>	

学生は通常、パート1とパート2の両方を取りますが、各自の英語力や希望によっては1つのパートのみを取ることも可能です。パート1修了後もパート2へ進むために更に英語の勉強が必要という場合には、4週間の**「学究的目的のための学期前英語研修」**([Pre-sessional English for Academic Purposes programme](#))を受講することもできます。ジュニア・イヤー・アブロード・プログラムのパンフレットはこちらをクリックしてください。

## 英語研修を含んだジュニア・イヤー・アブロード・プログラム 入学必要条件

パート1希望者は IELTS 4.5 (各コンポーネントにおいて最低 4.0 取得)、または同等の資格を必要とします。また、既に IELTS 5.5 (各コンポーネントにおいて最低 5.0 取得)、または同等の資格を持ち、本人が希望する場合はパート2のみ参加することも可能です。

パート1終了までに、IELTS のスコアが 4.5 から、少なくともパート2入学に必要な 5.5 に達すると見込まれます。

もし何らかの理由によりパート2に必要なレベルに達しなかった場合は、パート2へ進む前に[4週間の特別コース](#)を取ることになります。そのコース費£570は各自負担となります。パート 2 のみ参加する場合、また単独受講を希望する学生にもこのコースをお勧めします。

## 入学要項

### 英語研修を含んだジュニア・イヤー・アブロード・プログラム 入学願書

入学希望者はジュニア・イヤー・アブロード・プログラム入学願書 (Junior Year Abroad Application Form) を記入の上、以下のものと一緒に提出してください。

記入済の入学願書

正式な成績証明書

教師か教授による推薦状

TOEFL 又は IELTS 成績表 (英語を母国語としない者のみ)

パスポート写真 2 枚

### ロンドン・ジュニア・イヤー・アブロード・プログラム 願書締切日

4 月入学 - 2 月 1 日

9 月入学 - 8 月 1 日

入学願書に必要な事項を記入の上、下記の住所まで郵送してください。ファックスによる申込も受け付けます。

必要事項を全て記入済みのジュニア・イヤー・アブロード・プログラム入学願書とその他の必要書類が到着次第、合否を大学から連絡します。その際、合格通知と共に授業料支払方法や英国到着後に関する情報、オリエンテーション、また宿泊設備などに関する情報も送られます。その他、英国入国の際の入管法などについては各自で確認してください。欧州共同体 (EC) 以外の国籍を持つ人は英国留学のための査証 (ビザ) が必要な場合があります。

## パート1「英国文化 ('British Culture')」モジュール

モジュール名: 英国の文学、映画、演劇 1 (British Literature, Film, and Theatre 1)

モジュール・コード: HS001

モジュール・コーディネーター: エヴリン・シャープ

## 目標

このモジュールでは英国の文学、演劇、映画、そしてポピュラー・カルチャーに触れ、歴史的なものから現代にいたるまでの多様なアートフォームを学べるように構成されています。以下はこのモジュールの目標です。

- 上記のようなアートフォームを口述・文書両面で批評できるようになる

- セミナー中の英国文化に関する議論に、理論的、観念学的、実用的側面から自信を持って参加できるようになる
- 大学内外の図書館や情報資源を最大限に活用してリサーチ・スキル(研究技術)の基礎を習得する
- 勉強時間の上手な計画・活用方法、ノートの取り方、口述及び文書における意見の発表の仕方や構成方法などを含む、大学で必要な基本的アカデミック・スキルを身につける

## 内容

このコースは多様な教授・学習法を用いた、学生による「参加型」のクラスを目指しています。既存の文化概念を受身の形で学ぶのではなく、できる限り個人が自分で実際に文化を体験することが目的です。以下はコース内容例です。

- 英国文化の歴史と理論に関する講義
- 小論文、批評文、作品分析をまとめた各自のコース・ジャーナル作成
- セミナーでは、各週課題ディスカッションの導入部分を個人又は小グループで担当
- コース論文:コース内容に関する総体的な論題に関する長い論文

## 学習成果

このコースで期待される成果は以下のとおりです。

- 英国の多様な文化形態を理解し、慣れ親しむ
- 口述・文書両面で議論を構成、展開、伝達することができる
- コース・ジャーナルの作成—小論文、批評、作品分析をまとめる
- 口頭で討論する自信をつける
- リサーチ・スキルの自信をつける

## 教授・学習法

このコースは一連の講義やセミナーで構成されます。セミナーでは学生が中心となって、講義、課題図書、および演劇や映画鑑賞で蓄積した概念や情報を調査分析していきます。小論文を書く上での議論の組み立て方、書き方などの個人指導もこのコースの重要部分となっています。

## 評価

小論文やプレゼンテーションに対するフィードバックの形で学期を通して評価が行われます。最終的には以下の割合で出席率と課題の達成率を基に成績がつけられます。

- クラスの出席率とセミナーでのプレゼンテーション 20%
- コース・ジャーナル 30%
- 学期末論文 50%

## 参考文献

### 主要図書

Hall, Stuart, ed Representation: Cultural Representations and Signifying Practices (Musselburgh: Sage/The Open University, 1997)

### その他

Anderson, Benedict, Imagined Communities – Reflections on the Origin and Spread of Nationalism (repr. From 1983 ed.). (USA: Verso, 1991)

Esslin, Martin, The field of drama: how the signs of drama create meaning on stage and screen (rep. From 1987 ed.) (Reading: Methuen, 1987)

Furniss, Tom and Ball, Michael, Reading Poetry: An introduction (Bodmin: Prentice Hall, 1996)

Newton, Judith and Rosenfelt, Deborah, eds., Feminist Criticism and Social Change – Sex, Class and Race in Literature and Culture (London: Methuen, 1985)

Newton, K.M., Twentieth-Century Literary Theory – A Reader (repr. From 1988. ed.) (Hong Kong: Macmillan, 1991)

Sinfield, Alan, Literature, Politics and Culture in Postwar Britain (Worcester: Blackwell, 1989)

Thompson, E.P., The Making of the English Working Class (repr. From 1968 ed.). (St Ives: Penguin, 1991)

モジュール・コード: YA100 パート2

モジュール名: 学究的環境での学習とコミュニケーション (Learning and Communicating in the Academic Environment)

レベル: 基礎 (Preliminary)

### このモジュールの目的:

このモジュールでは、学生が様々な学習法に接し、学習力の発達と自覚をはぐくみ、学問研究や複雑な学習環境に適應するのに必要となる人間関係、コミュニケーション力、分析力、読み書き能力などのスキルの発達を助けることを目的としています。

このモジュールを修了する頃には、学術環境における口述・文書での効果的なコミュニケーション力が身に付いているはずですが、また多様な資源から情報を見つけ出し、評価・分析することができるようになります。さらに、個人で学ぶだけでなく、グループダイナミズムと個人の長所や素質を認識しながら、クラスメートと協力して学ぶことができるようになります。その他、学問研究における基本的な ICT (インフォメーション & コミュニケーション・テクノロジー) の利用法をよく理解し、使いこなせるようになります。

### 身につく主な能力:

状況に応じた効果的なコミュニケーション力  
情報の探索、処理、解釈力

### その他の能力:

自分自身を管理する方法と人間関係の確立  
批判的な考え方と問題の解決力

### 学習成果:

このモジュールで期待される成果は以下のとおりです。

- 多様な学習法の存在を理解し、自身や他人に合った学習法を確認し、さらに発展・確立させる
- 紙ベース及び電子ベースの多様な情報源から情報を探し出し、まとめ、分析、評価できる
- 十分な情報に基づいて読む文献を決め、創造的かつ批判的に読書できる
- 口述・文書両方の資源をもとにノートを取り、後で情報の取り出しや概念の確立の際に利用できる
- 文献を読み、思考・批評したうえで、自分の文章にまとめるための計画力、構成力、文章力を身につける
- 多様な情報資源を参考に論文を作成し、学問的慣習に基づいて参考文献を示すことができる
- データの視覚的プレゼンテーションを行い、口述および文書で討議できる
- グループワークの原理と重要性を理解し、他の学生との小グループで協力的かつ生産的に学べる
- 明瞭かつ興味深い口頭発表ができる
- 様々な方法で試験やその他の評価に臨む準備ができる

### 内容

## 学習法と理解

様々な学習法研究の裏付けとなるコンセプトを学ぶとともに、各自に合った学習法を見極めていきます。Honey and Mumford (1980)の研究文献を参照にしながら、各個人に合った学術的な学習法を確立させていきます。

## 情報探索と創造的かつ批評的な文献研究

紙ベース及び電子ベースのさまざまな資源から情報を入手する方法を学びます。また情報の取得・選択・評価・分析の方法を学びます。さらにマインドマッピング(Buzan 1995)やその他の情報記録・処理方法を学び、インターネットの利用技術を磨きます。

## 適切な参照資料の利用、熟考・分析された文章の執筆

読んだ資料を基に自身の批評能力を利用して、状況に応じた様々なスタイルの学術論文を書くことを学びます(Crème and Lea 1997)。また同時に、自身の論文のスタイルと概念の表現方法を発展させます。論文を書く上での資料の利用法や参照資料の重要性を理解し、コンピュータを使った高度な文書の作成を練習します。

## グループワークと口頭発表

クラスメートと共にグループワークを通して言語を含む個人間でのコミュニケーションスキルを発展させる機会が与えられ、グループプロセス(Rice 1995)やグループにおける個人の役割の理解を深めます。グループの仲間に視覚的かつ口頭で情報を発表する自信をつけるほか、自分の考えを表現し、情報を伝達し、他の人の意見に共鳴したり批判したりする能力も伸ばします。ICT(インフォメーション&コミュニケーション・テクノロジー)を利用した視覚的な情報伝達の方法も学びます。

## 評価へ向けての準備

学問の場における評価の目的とその方法について、実際にどのようなメソッドが使われているか、理解を深めます。自身の長所を伸ばし、短所を直すためのタイムマネジメントの基本的原理を学び、高い評価を得るためにどのように応用できるかを学びます。

## 教授法と学習法

このモジュールでは学生が中心となり、それぞれの学習の目的、また各自の学習法に対する取り組み方や考え方に焦点を当てます。自立、独立した学習者を育てるとともに、グループでの学習法も学んでいきます。クラスはグループ作業を含むワークショップ形式及び担当教授の指導を受けながらの独自学習の形を取り、自己評価だけでなくクラスメートからの評価も含まれます。各個人またはクラスメートと協力したクラス外での学習も奨励されます。

## 評価

- a.) セッション毎の評価: 課題やグループ討議に対する講師とクラスメートからのフィードバック
- b.) 総合的評価(100% コースワークに基づく)
  - i.) ポートフォリオ: 6つの短い提出物を集めたもの(40%)
  - ii.) コンピュータでタイプ打ちした1500語の短い研究課題(40%)
  - iii.) ICTを使って作成した視覚資料を1点以上使用して研究課題を口頭発表(20%)

i.) ポートフォリオ: 6つの短い提出物を集めたもの(40%)

- 講義のノート
- 読書の際のノート(読んだ文献のコピーも共に提出)
- 論文作成計画の詳細(例: 小論文、レポート、ケーススタディなど)
- 3種類以上の参考文献を6点以上(例: 本、定期刊行物の記事、編集本の章、ウェブサイト、新聞記事、ラジオ・テレビ番組など)
- 口頭発表の計画の詳細(視覚資料の例を含む)
- 小グループで行った課題の報告書—グループ内での自身の役割説明を含む

ii.) コンピュータでタイプ打ちした1500語の短い研究課題(40%)

(i) の課題の一部である読書や講義のノートをこの研究課題に使用してもよいこととします。提出済みの計画の詳細や参考文献をこの研究課題に使用しても構いません(尚それを奨励します)。この課題は必ずコンピュータを使ってタイプ打ちし、参照したウェブサイトも参考文献に含まなければなりません。

iii.) ICT を使って作成した視覚資料を1点以上使用して研究課題を口頭発表(20%)

## 参考文献

### 1. 学習法

Honey, Peter and Mumford, Alan (1986) Using your Learning Styles

### 2. 読書研究

Collins, C : armel (1984) Read, reflect, write, Prentice Hall

Fairburn, Gavin and Winch, Christopher (1993) Reading, Writing and Reasoning, SRHE and Open University Press

James, Sybil (1984) Reading for academic purposes

Moidel, Steve (1994) Speed reading (with video and audio cassettes), Career Track International

### 3. ノートの取り方

Buzan, Tony (1995) The mind map book, BC Books

Northedge, Andrew (1994) The good study guide, Open University Press

Rose, Colin and Goll, Louise (1992) Accelerate your Learning (with video and audio cassettes) Aylesbury Accelerated Learning Systems Ltd.

Smith, Mike and Smith Glenda (1990) A study skills handbook, Oxford University Press

### 4. 小論文の書き方

Crème, Phyllis and Lea, Mary R. (1997) Writing at University: a guide for students, Open University Press

Johnson, Roy (1994) Writing essays – guidance notes for students, Clifton Press

Roberts, David (1997) The student's guide to writing essays, Kogan Page

Williams, Kate (1995) Writing Essays, Oxford Centre for Staff Development

## 5. レポートの書き方

Bartram, Peter (1994) The perfect report, Arrow Books  
Bowden, John (1993) How to write a report, How to Books Ltd  
Sussams John E. (1984) How to write effective reports, Gower  
Williams Kate. (1995) Writing Reports, Oxford Centre for Staff Development

## 6. グループワーク

Rice, J Successful Group Work

## 7. 口頭発表

Comfort, Jeremy and Utley, Derek (1995) Effective Presentations (with video cassette) Oxford University Press  
Leigh, Andrew and Maynard, Michael (1993) The perfect presentation, Century Business  
Moss, Geoffrey (1993) Getting your ideas across, Kogan Page  
Stevens, Michael (1996) How to be better at giving presentations, Kogan Page

## 8. 試験と復習

Burns, R (1997) The student's guide to passing exams, Pan Books  
Buzan, Tony (1995) Use your head, BBC  
Buzan, Tony (1988) Make the most of your mind, Pan Books  
Henderson, Penny (1995) How to succeed in exams and assessments, Collins Educational